

3

20

1 2 3 4 5 6 7 8 9 JAPAN

10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

地 方 版 集 成

7保3  
3-347  
8



門口保3  
9.347  
卷8

地方叢集底稿篇卷之十

目錄

舊地根究差額田稅今歸一旁一事

貴之一事

永之一事

之二一兩兩一事

閩東六縣遷移事

閩東重付差額法一事

尚按年賦徵之結一事

地方叢書

卷之十

旌北移元系郵國承今集序  
一丈旌地八部綠年印山山山年數  
主名多見後有之子不詳考事  
一制及通古之不互之主多見今之主  
主多見之主多見之御主之主多見之  
今之主之主多見之不度主微主之主  
主多見之甲化並數之斗主之主多見之  
用之主之主多見之主之主多見之

走馬車馬足と見と大をすよ五尺三寸  
半身の處とて下をすと之を御車御車  
の事と云ふ者と申すと今も之を車と  
曰圓軸車と申すと申す也。

立馬車の事と申すは御車かと申す人を多くし  
るが半車と紙と申すと申す事と申す  
かひあらかよんと申す事と申す事と申す  
是車頭と底と紙と申す  
而又稱よ車頭と申す事と申す事と申す  
少々と申す事と申す事と申す事と申す

一三畳攻異曰中華以曲尺六尺立寸為步此步法  
未審其所始或謂昔者量地之竿長一丈三  
尺併二計之人立提中间而端送昂迹點地而  
以追行首尾接繞以度之蓋取箇間距也今考之  
立提竿有腰間去地可二尺立為勾地步定為  
股而依求其法高得六尺立寸故制竿兩頭各六尺  
立通課十三尺後用此就而度意以六尺立寸為  
步而丈三尺之竿迄今尚未改耳元和以來降  
新田法六尺立寸為步三十步為段十段為町  
計方而以六尺立寸為一間六十間為一町此書

合改並用此法近年又換地六尺竿他如旧法  
以其未之故此不取之

曰國表法中華半步三尺半とあらずハ  
よきの御法古舊之處の村々一歩半す  
半れ場所より餘り無く而まことひて  
主附一株花木勿論主幹ゆゑに記  
する事アリ半步地而半度あり候はレ  
往々事アリ半步地而半度あり候はレ  
主半步と於一亩半と地半歩とと付テ

ノリよ地ノリ半步と大抵半步半リニモ  
多キ半步と法アリ少シ半步と訥  
善法少シ少シ半步と少セハ地四寸八分  
二寸ありとモモモウ引アリ主半步と  
制ノリ少シ少シ半步と少シ半步半リニモ  
のアリ少シ少シ半步と少シ半步半リニモ  
佐州府半步半步半步半步半步半步半步  
半步半步半步半步半步半步半步半步半步  
半步半步半步半步半步半步半步半步半步

かまくらより下りて是も右へ左へ回へま  
えと法地より角と四つ手すり  
をもととてはとあへて般とかせハ地裏  
半角用ひ用ひるれどものあるまゝ人  
半と用ひて又えぬ三年が田の  
法よとくととをとほり事と半夏  
以あれ地と海と水の事ととほり事  
れひて方の割原よりともねほの事  
用ひ事】主屋の中ある處、柱上  
縁より町邊のお方の割原より仰ます

主屋半とくとく波主屋及ぶ東  
地より沙室の主屋とく折代也  
弓持。右屋折の主屋とく主屋とく  
とく大屋とく折代とくもとて地計  
しとくは主室の主屋と用ひてあるべきも  
思ひて准代也。附とくらふ尾成へ少子  
少子とくと弓持とく折代とくづねよゆ  
主室の餘馬と古くすとくとくとくと  
弓持とくと弓持とく折代とくづねよゆ

篠山時代ももとちねじと百町とももく農  
町隣へ花町へ延びて延びてや花町へ言  
害よつとす

一地方を薦め書云事也あらわすと見まえ  
す用ゆうの用細いあはれも中古ももまつ  
ひもひとひまくすと用くにやうは文庫もす  
あ吉公の名も花園花園花園花園花園  
と角くにやうはひも右くさの書すと記  
ゆすすと花園花園花園花園花園  
花園花園花園花園花園花園花園花園

み室のまうらうももこの事もとかのあ義  
弟くらうの花園へ今ふ公儀花園花園  
まえまへゆる羊とお花園の花園書報立す  
田をももと中古もも羊とあひとて立羊と  
用くに羊とてあひてて古花園花園  
の花園とおあてりよつてててててて  
お花園花園花園花園花園花園花園  
花園花園花園花園花園花園花園花園  
花園花園花園花園花園花園花園花園

坐す。右年とく。吉良。元。有  
上は立て。とく。とく。東より。事。えす  
智。も。よ。即ち。往古。を。ま。し。立。事。  
とく。事。とく。とく。一。か。書。書。て。和。法  
萬。とく。左。も。の。方。事。折。此。此。事。書。  
立。事。とく。年。とく。吉。良。とく。種。也。  
地。本。經。事。事。あ。ま。す。右。通。す。左。事。  
とく。ハ。古。年。とく。地。法。め。り。と。あ。と。と。傳。  
立。年。年。の。東。の。場。今。又。滿。も。富。  
事。とく。とく。の。傳。と。経。す。左。事。

とく。種。とく。種。とく。種。とく。種。とく。  
立。年。とく。今。又。改。ひ。へ。と。も。官  
て。とく。とく。  
弓。折。とく。秦。之。と。年。八。折。弓。高。人。度  
薦。培。とく。紀。古。法。宣。と。法。よ  
と。方。る。立。年。と。是。國。東。之。  
里。吉。良。と。く。年。

右。考。と。と。和。通。と。と。和。と。と。和。  
と。と。和。と。と。和。と。と。和。と。と。和。  
と。と。和。と。と。和。と。と。和。と。と。和。

三重ノ法ノ事也。之ニテ申リテトテ  
取ム中主所列ウニ一高ヨシ申マリテ  
有ルト内ニシテナシ。有ニテアリテ。早  
シテ。ト辞ル様。是ハ常語。能シ五  
也。之ヲシテ左吉者。財。主。年。材。  
法。ハキミナ事。御。此。モ主。主。年。材。  
上。六。主。人。事。と。用。シ。レ。シ。  
又曰。上。主。申。す。る。ま。ち。を。申。て。下。ノ。足。年。二。坪。  
少。宣。申。フ。上。主。は。之。を。申。す。凡。ノ。足。年。二。坪。

房。ノ。足。年。少。宣。ア。申。シ。申。リ。リ。足。  
ト。主。交。音。落。稀。ア。セ。テ。ア。主。種。ト。下。ノ。足。年。詳  
シ。ノ。割。内。ハ。足。年。詳。タ。ソ。シ。ク。ル。ナ。リ。モ  
美。角。立。主。交。音。落。稀。ハ。多。申。リ。も。若  
法。シ。カ。リ。招。元。左。通。ト

三十日

世。詳。音。落。稀。別。主。交。音。

モ。主。年。の。り。敷。セ。サ。三。千。尺。

吉。月。シ。ロ。敷。之。横。土。一。間。

二。二。十

足。引。一。ア。ト。リ。

三十日

足。詳。

音。辛。落。

足。詳。三。六。詳。

是。別。主。交。音。

形。一。

音。

六。尺。

入。六。詳。

音。辛。落。

足。詳。三。六。詳。

是。別。主。交。音。

形。一。

音。

音。

右度通曰本朝之古制凡田長三十步廣十二步為段十段為町右三十間十二間也

一日本紀曰孝德天皇三年春班田既訖凡

田長三十步為段十段為町

本朝古ヘ歩カズハ唐ヘ准シテ五尺ナ一坪ト

ス一反ハ三百六十歩ナリ一町八十段ニシテ

三千六百坪ナリ町ハ唐ノ頃ニ准シ廣狹アリ  
今ハ三千坪大町トシ三百坪ナ段トスコレ天  
正年中ヨリ始ルト云ヘリ又一段ナ割テ一畝  
トス何頃ヨリ始ルトナ知ラス

因ミテ云猶クヨリと云件トモト事  
多希系大久保ヨリヨリ利吉のまゝ(後)、言  
玄蕃(アキハタ)、(アキハタ)、(アキハタ)、(アキハタ)  
妻(アキハタ)、(アキハタ)、(アキハタ)、(アキハタ)  
妻(アキハタ)、(アキハタ)、(アキハタ)、(アキハタ)  
名(アキハタ)、(アキハタ)、(アキハタ)、(アキハタ)

ゆるる水の木を小河へとて入有  
内木を水へとて有水もとて有  
百石船とて有水へとて一百石とて  
えり水船とて有水へとて半船へとて有  
あわら石の船とて有水へとて船とて有  
すれり水船とて田地水船とて有  
の水へとて軍役水船とて有水へとて水  
の水へとて水船とて有水へとて水  
の水へとて水船とて有水へとて水  
てハニヤとて水船とて有水へとて水

二十九日  
一町とて水船とて有水へとて水  
の水へとて水船とて有水へとて水  
の水へとて水船とて有水へとて水  
の水へとて水船とて有水へとて水  
の水へとて水船とて有水へとて水  
の水へとて水船とて有水へとて水

水船とて有水へとて水船とて有  
水へとて水船とて有水へとて水  
の水へとて水船とて有水へとて水  
の水へとて水船とて有水へとて水

御内御ノ御事ニ言テ後序其事の

付合

一唐之歩畝頃本朝歩段町準之

里也。至是後ちし移り又多て移  
居す。一歩すと限らずす。後世ト書多  
く。今化町も大体よな。左傳襄公二十五年二曰町原防ト  
杜氏集解三曰隄防間地不得方正如井田  
則為小塊町賈達曰原防メ地九夫為町  
三町而當一井也ト

此後より引よ五丈。五步をより先傳也  
西角せんれん御事。町名。田代。年  
事。字。原。田代。名。字。より  
今化。字。稟。字。町。多。と。解。右  
田色。の。財。持。あ。田化。吉。と。よ。左  
字。上。市。角。も。く。す。下。

捨萩抄曰凡田方六尺為步三十六步ナ為  
一畝既ニ双注曰百六十步ナ為一反積七十  
步為十代百四十步ナ為二十代二百六十  
步ナ為三十代二百八十步ナ為四十代五

十代ヲ為一段或曰代ハ双ナリト云々

愚雲曰往古意在兵事と主張をもつて少割

タケシテアモ千字もとナカニ又ナカニ

一五字もつて少割ナレハ半段の而軍也

軍也ノ意也ノ年也ハ皆半字もつて字

ナ字もつて少割ナスシテアモ半字もつて字

ヘテモ少割ナスシテアモ半字もつて字

シテアモ少割ナスシテアモ半字もつて字

少割ナスシテアモ半字もつて字

故ニ訛リ轉シテ如是拾芟ニ又曰十段為一町  
頭十段為一町積三十六町為里起從西行  
於東限リニ六里町始艮終乾但已上可隨國例右ノワケ又  
令ニモ見ヘタ其後ノ制法ト見ヘタリコレハ  
今ノ三十六町一里四方ノ處西ヨリカツヘ始テ  
一里二里ト云毎一里法一町ノモノ三十六ヶア  
リテ幅一町ニ長サ六町也又是ナ北ヨリカ入  
ヘテ一條二條ト云毎一條又方一町ノモノ三十六  
箇アリテ幅一町ニ長サ三十六町也里ト云條ト  
云モ固ニテ豎ト横トヨリツモル迄ノ替リナリ

古ヘ田地ナハカル定法ト見ヘタリ今ニ至リテ  
郷村ノ名ニ東條西條ホノ名アリ又古ヘノ  
文書ニ其條ト云「多クイヘリ古ヘ通行  
ハレタルトニテ中古以来其法庵絶スト見ヘタ  
リ拾芟又曰條里ノ起リ可隨國例是ニテ  
可知本朝モ中國ノ法ニテ一里ノ内ニ小名ナシ  
何里何町ト云フナ見ス拾芟ニ三十六町ナ  
為一里ト云アリ是上ニ論スル通リニテ田地  
積リ方一町田ナ三十六ナラベタルト云路程ノ事  
ニアラス三十六町一里ト道法ナツモルハ是ラ

ヨリ轉シタルトナルヘシ惣別本朝里ト云ト  
三様アリ戸令ニ以辛戸為一里ト云ハ土地ノ  
廣狭ニカマワス家教ナ以テ一在所ナ立ルノ  
名ナリ難令ニ凡三百六十歩ナ為里ト云ハ  
路程ノ法ナリ世ニ六町為一里ト云ハ田地ツ  
モリナリ其ワケ同シカラス

田舎ト右角ノ私法トソアリ是とも制  
度通ヘ波打ト、道の筋を定ム事トモアリ

古井手

而曰亦有里方ナシムニテ有里ナシ町有里  
一セドニキニギリトテ法一里ナシ  
みキナシとつま未可ムフミトテナシ音  
ミチテ里ナシムニテ用ナシテナシ  
唐ナシ唐ナシ和のニヤヒトメ宣判  
乞之終キキナヒ御トキ

又曰百姓家一軒ト云ハ人教以有五人一軒トス  
ト見ヘタリ既ニ甲斐国八代郡ニノ宮造立  
勧化ノ節一軒ヨリ叔立合ツ、以判外可  
勧進入ト有リ其節三人ノ竈二人ノ竈ナ

加へ十人ノ竈ハニ軒ニ立ルト云ヘリ五人養フ  
者ハ定ノ一軒ナリ十人養フ者ハ百姓ノ  
内也ト云

田家不<sup>ト</sup>有<sup>ム</sup>事

大至小農主多<sup>シ</sup>者もと云ひ少農主  
今<sup>シ</sup>石屋<sup>シテ</sup>以<sup>テ</sup>御<sup>ス</sup>事<sup>ニ</sup>御<sup>ス</sup>  
主<sup>シ</sup>は地役<sup>ト</sup>、<sup>シテ</sup>主<sup>シ</sup>は役<sup>ト</sup>、<sup>シテ</sup>主<sup>シ</sup>は小  
主<sup>シ</sup>、<sup>シテ</sup>主<sup>シ</sup>は有<sup>リ</sup>、今<sup>シ</sup>也獨<sup>リ</sup>  
一地方<sup>シテ</sup>主<sup>シ</sup>言<sup>フ</sup>云<sup>フ</sup>世<sup>ト</sup>、<sup>シテ</sup>古國<sup>シテ</sup>主<sup>シ</sup>ト<sup>シ</sup>  
多<sup>シ</sup>年<sup>シ</sup>主<sup>シ</sup>よ<sup>ハ</sup>田端<sup>シ</sup>石<sup>シ</sup>と<sup>シ</sup>主<sup>シ</sup>カ<sup>ム</sup>

經<sup>シテ</sup>少<sup>シ</sup>幅<sup>シテ</sup>大<sup>シ</sup>、<sup>シテ</sup>省<sup>シテ</sup>少<sup>シ</sup>、<sup>シテ</sup>百萬  
主<sup>シ</sup>ハ百萬<sup>シテ</sup>主<sup>シ</sup>、<sup>シテ</sup>省<sup>シテ</sup>、<sup>シテ</sup>世<sup>ト</sup>  
主<sup>シ</sup>省<sup>シテ</sup>主<sup>シ</sup>カ<sup>ム</sup>  
思<sup>フ</sup>主<sup>シ</sup>よ<sup>シ</sup>主<sup>シ</sup>、<sup>シテ</sup>古<sup>シ</sup>者<sup>シテ</sup>花<sup>シ</sup>、<sup>シテ</sup>主<sup>シ</sup>主<sup>シ</sup>  
主<sup>シ</sup>、<sup>シテ</sup>傳<sup>シ</sup>、<sup>シテ</sup>傳<sup>シ</sup>、<sup>シテ</sup>傳<sup>シ</sup>、<sup>シテ</sup>傳<sup>シ</sup>、<sup>シテ</sup>傳<sup>シ</sup>  
主<sup>シ</sup>主<sup>シ</sup>事<sup>シテ</sup>主<sup>シ</sup>、<sup>シテ</sup>主<sup>シ</sup>、<sup>シテ</sup>主<sup>シ</sup>、<sup>シテ</sup>主<sup>シ</sup>  
主<sup>シ</sup>主<sup>シ</sup>、<sup>シテ</sup>主<sup>シ</sup>、<sup>シテ</sup>主<sup>シ</sup>、<sup>シテ</sup>主<sup>シ</sup>、<sup>シテ</sup>主<sup>シ</sup>  
主<sup>シ</sup>主<sup>シ</sup>少<sup>シ</sup>と<sup>シテ</sup>用<sup>ヒ</sup>、<sup>シテ</sup>主<sup>シ</sup>、<sup>シテ</sup>主<sup>シ</sup>、<sup>シテ</sup>主<sup>シ</sup>  
主<sup>シ</sup>主<sup>シ</sup>、<sup>シテ</sup>主<sup>シ</sup>、<sup>シテ</sup>主<sup>シ</sup>、<sup>シテ</sup>主<sup>シ</sup>、<sup>シテ</sup>主<sup>シ</sup>  
主<sup>シ</sup>主<sup>シ</sup>、<sup>シテ</sup>主<sup>シ</sup>、<sup>シテ</sup>主<sup>シ</sup>、<sup>シテ</sup>主<sup>シ</sup>、<sup>シテ</sup>主<sup>シ</sup>

かくしてはははははははははは  
もまく形を以てはまく地役  
よも度りてはははははははは  
ゑふれせしとてははははは  
御紳のゆゑあるあるあるある  
えのはとて村のいるよせもも度  
きりてははは

一四三より御是書は天平九年在  
守在原野里北野水門  
一中田の事は

一ノ田之役大抵  
田令九反少半  
田塞拂ひて往來の事  
此代八反半水  
萬よせ中りの往來ありまゐる  
程りて今に招かれよす  
事多事少  
予許拂ひて是反を貰ひたる  
つりて北野水門

一ノ田、又大將軍、移さむ

きふせまちあらへ

田舎九度少々

あち安里の在すをこそ、意平ちと反  
門又塔をのれ百石を門ゆる。あやう  
御上、典吉も之を不承あるの割合  
すり

費する事

鶴谷將軍、嘉えよ、主の將軍家の財  
田地より事ことりて、如何以て地  
主より其のと用づて、主と一統行

八八

事こと、主は算すかへ、承るよ  
事こと、世よては考かんる、まつよ  
あくす、あくすありあり

又曰、主より、主の守、英國へ、大臣、  
而自主じしゆ、補正ほじゆ、主の守、英國へ、主を  
へたる、主の守、補正ほじゆ、とし、とて、大臣  
終焉しゆゑん、是が今何事こと、より、主の守、英國へ、主を  
送おもて、とて、とて、とて、とて、とて、

田舎いなか、猪いのし、云々、少々すこ、國くに、事こと  
終焉しゆゑん、は、豈いか、主ぬし、代だい、とて、

およえあればもとを證す事  
多くもと年紀よりはあらず時より御  
神りうるる將軍あり時代もさ  
りりれり事ともて取の又と年紀の  
越はあ代の事とゆきりすよと御往  
き今も市井へ地元すある。而とさ  
うすすりあくへ但一覺かしめま  
るべから

又曰西山古事記云高祖は西夷將軍義昭公  
之世より是れとてひづる原野射公の

被事大宿主大の唐元也事等とす  
中以至多處一不至奉事と傳  
タリニ多氏將軍と國りの角宿波と  
医宿セリとて角宿と云ふてあるとて  
義廟吉原ニ三千兵と船と船りよ  
またのれより利少川義廟「うるる」  
毛利唐元男子少川義子與元義廟  
毛利元吉の傳より三子男と傳其  
家主能日生多治比三三百萬人と傳

又曰後柏多院（寺）也。一院有白雲居  
數房。又云是院在大山之房。故名之。大山  
之房。烟都。又曰鶴林。又云大山之房。少林  
寺。又曰方丈。又云。南院。又云  
又曰唐佛。又云。本院布山五年費。古良  
平費。大吉。四年。而度支。五年。費。李。我。經  
足。錢。長。歲。錢。經。之。而。費。五。外。少。結。不。記。  
不及。皆。除。數。附。居。

持。又。多。之。以。東。金。兩。生。金。大。之。流。了。

又曰少深。又云。少。知。又云。少。百。費。  
少。之。百。難。之。相。少。之。田。之。年。苗。之。花。枝。  
事。少。之。百。難。少。之。百。難。少。之。苗。百。日。上。  
千。株。少。之。苗。之。費。同。少。之。田。難。少。之。大。底。  
十。難。少。之。百。石。百。難。少。之。石。保。上。年。少。奇。  
一定。少。水。是。古。底。

田。室。持。寺。又。之。軍。及。之。田。地。片。  
教。至。之。割。片。之。部。之。李。煙。  
少。之。軍。及。之。寺。又。之。是。之。寺。之。平。

了の程へ西行すと以ての車  
路へ軍役へ室へアリの所候  
而もはあひ役と申く事也候  
る所を吉良と申すと申す  
る所を吉良と申すと申す  
今時の程へも少しく手りか  
多路へ軍役勤めへりとも若兵  
農へ或生れん所の事也當用  
又ハ口合か一木概十石の重百石八千  
石もありすよりは倍一木せんと  
一木つはねま木筋すと申す

地被植せられ地百畝百石と地主をあ  
うも之田地へ半引りし承あらずあり  
主耕へ一木を一木まで之奉事す貢  
へりゆゑに軍役と田代のあれ  
至るを今も百畝百石と申す  
方概百石の主なる所の事と申す  
承る今植せられ石と改り上へ主なる不及  
只民用と申す御事と申す古事記と申す  
田代の細やかと申すと申すてて西上  
よせむる事と申すと申すと一事と申す

多八田代主事（事）油敷百文十卷文  
うその處（處）支那（支那）焉（焉）也（也）ハ既（既）  
通（通）金將軍家（家）の名前（名前）、小馬鹿八丈（八丈）  
も沙（沙）よ英國（英國）國（國）すのう（英國）也（也）  
用傳（用傳）煙敷（煙敷）水（水）油敷（油敷）也（也）幸（幸）一事（一）  
あ

### 形高（高）主事

形高（形高）主事（主事）石高（石高）主事（主事）日本  
はくはくの食（食）過（過）と、日本錢（日本錢）能（能）御取（御取）  
かくへく主事（主事）と曰（曰）今も事（事）道筋（道筋）

又（又）曰（曰）主事（主事）の屏（屏）熱（熱）にち主事（主事）万萬  
書（書）を載（載）さり不

### 高鶴（鶴）主事

高鶴（高鶴）主事（主事）百萬（百萬）主事（主事）  
百萬（百萬）主事（主事）百萬（百萬）主事（主事）

日

御答書

右の仕事 申爲下合にて都合をうなづけ  
仕事一中間之様申候る所 売書古道書  
一の差し所

五年、年六月。

卑恭致霜

鶴岡

社子

年

愚と拙書をさへ奉候及社从ゆきの古筆書物と  
えどりとおもひて御筆の筆文とぞ、承  
宣句、愚も御承りて承る所今ぞ

合すか、御手すみ申まへ、詰ま事あら  
第す、此の遣法よりは、取て、取て  
書く、書くも思ふ、取て、取て、取て  
取て、取て、取て、取て、取て、取て  
遣法より、扇羽、陽面、事の如ひを  
かく、かく、かく、かく、甲子、卯、水、  
波、波、波、和、和、和、和、和、和、和、和、  
や、今、今、取て、取て、取て、取て、取て、  
取て、取て、取て、取て、取て、取て、取て、  
もあく、み上中り、仕事ありて、取て、取て

又後事  
事すべからず  
御多門等  
地圖一卷と被服一卷と  
衣よ合意せりて承る。故に五日也  
里及ばず水の社を加えよ水の社と之を  
往て修む。即ちと申す。故會の舊傳  
水文と稱す。水文と極む。是れも水文  
主事也。往て應ひて吉野と申す。也の  
唐手もあり候。即ちと極む。是れも水文  
被列。即ち五日もすと申す。是れは宣法  
之經。即ち宣法と申す。因方主事之水文

水文方の事よ讀みよ。か事。即ち前代  
八事の類也。即ち水文方の事。即ち前代  
今八事。即ち當事中代。即ち八事。水文尾  
之也。法事。即ち水文方の事。即ち水文尾  
之也。水文方の事。即ち水文方の事。即ち水文  
前例。即ち前代。前例。即ち前代。即ち水文  
前例。即ち前代。前例。即ち前代。即ち水文

水文方の事。

一又曰水文事。即ち前例。接尾部。即ち事。接尾  
三言解。至及田端。即ち上半句。而後三言解  
余國。至よ前半句。付する事。即ち事。接尾

村方永重事文書度文書事文書  
と永重事文書但右那重人田畠上半り  
主事外力往來の経つハ永重三百七十五  
年九月廿日付也。烟方も本手の主膳押あつて  
主事外也。右之音を承ふと材も  
於北三合無少て主事外主事文書  
と主事外少て主事外主事文書を括  
法事外主事外主事外主事文書を括  
地主と主事外主事外主事文書を括  
納す。但一因の、主事外主事外主事文書

主事外主事外主事文書を括  
主事外主事外主事文書を括  
主事外主事外主事文書を括  
主事外主事外主事文書を括  
主事外主事外主事文書を括

用事と主事外主事外主事文書を括  
主事外主事外主事文書を括  
主事外主事外主事文書を括  
主事外主事外主事文書を括  
主事外主事外主事文書を括



走るよ水向の絶中烟草屋と水煙管と半身の  
持てて之はいの事とては友とす事とて是  
主徳の事とては友とす事とては友とす事とて是  
田方と日奈と用とよハ水煙管と用とひくの事  
とては友とす事とては友とす事とては友とす事とて是  
田方と日奈と用とよハ水煙管と用とひくの事  
とては友とす事とては友とす事とては友とす事とて是  
田方と日奈と用とよハ水煙管と用とひくの事  
とては友とす事とては友とす事とては友とす事とて是  
田方と日奈と用とよハ水煙管と用とひくの事  
とては友とす事とては友とす事とては友とす事とて是  
田方と日奈と用とよハ水煙管と用とひくの事

一 烟方吉右  
伊方吉右  
事事書もととを考る事とて是  
左通

伏方吉右  
那須水野方吉右  
事事書もととを考る事とて是  
世祖吉右  
伊东九郎吉右  
伊代水野吉右  
多喜水野吉右  
石室吉右

一 烟主

世外水百泉文

世外水主文

世外水主文

世外水百泉文

世外水百泉文

世外水百泉文

一 烟主

世外水百泉文

世外水百泉文

世外水百泉文

世外水百泉文

世外水百泉文

世外水百泉文

一 文曰古事記聖主文と石子は極」と云は今

鉢食事一文と聖主文と石子は極」と云は今

鉢食事一文と聖主文と石子は極」と云は今

鉢食事一文と聖主文と石子は極」と云は今

まくまくと重と重と重と重と重と  
えのすゑ五度をもねり起りまは役承る  
結すの重用しるをあく石室大枕十本  
のへ中よりよし馬車上廻りてはるを  
要すとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞ  
そハ薄食承るに候りとぞとぞとぞとぞ  
揚事より薄食の重と重と重と重と重と  
極りえりとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞ  
附合すとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞ  
まくまくとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞ

岩手代と重と  
た。寶鑿をもとまくまくとぞとぞとぞとぞとぞ  
まくまくとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞ  
うとも詰りとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞ  
まくまくとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞ  
永とぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞ  
何とぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞ  
まくまくとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞ  
水とぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞ

主承るハミサツニシテトキノ件  
弟系ニ希モアリテモ此の承る事ニハ  
テレ浮シテテテテテテテテテテテテテテ  
二宣年滿御中御内官之に承度、  
弟七八歳、於石と付、  
弟之名とす。又御子也、  
主めうひ地主母也、古より小室  
五、六とて不育の地而、度候有之  
主めうひ御中也勿漏漏汲水也、  
承主めうひ主君は経、陽子山る

も陽不度候使也、  
渙猶之主渙猶之主、那也と候  
リ、主陽不度候使の主爵也、  
件數の主の主事也、是や、是  
上、陽不度候使也、  
那也、事是又主爵也、  
不獨、よ申文、捕書等作用左を承る  
者乎一哲也、  
至若勢、用、事是、  
至若勢、用、事是、

多事少空

是とよめしと白事

世も未だ未

村の子と白事

世も未だ未

ありん

世も未だ未

但一あく

世も未だ未

但一あく

右前金庫内に生まう事別室東北面

石柱下

金庫内

世も未だ未

金庫内

世も未だ未

金庫内

世も未だ未

金庫内

世も未だ未

写す事多事年金九月

世も未だ未

金庫内

右金庫内用烟立毛邊此多事年金九月

金庫内

金庫内

金庫内

金庫内

金庫内

金庫内

上記を一報納之事

世も未だ未

金庫内

金庫内

一  
三首石

之子成之在山門拾石在平定寺合  
丹詒者在山門拾石在平定寺合

丹詒者在山門拾石在平定寺合

一  
三首石

世詒者在山門拾石在平定寺合  
丹詒者在山門拾石在平定寺合

一  
三首石

世詒者在山門拾石在平定寺合  
丹詒者在山門拾石在平定寺合

少人而之身身身身

三首石在山門拾石在平定寺合

一  
三首石

世詒者在山門拾石在平定寺合

并首五首石在山門拾石在平定寺合

并首五首石在山門拾石在平定寺合

烟方

三首石在山門拾石在平定寺合

烟方

世詒者在山門拾石在平定寺合  
并首五首石在山門拾石在平定寺合  
并首五首石在山門拾石在平定寺合  
并首五首石在山門拾石在平定寺合  
并首五首石在山門拾石在平定寺合

事は御、是と重合、法ノ事ノ刻其  
事也。但一之首石付並其下五石全體  
也。

一之首桂石左半

國方、何符

金丸九石左半

並首右七石半

永良家文

金丸九石右半

綱之永良家要文と定め、此も蓋の底  
一石どうも並首右半なり。左ノ弟とかの重合

八石ノ除本事ノ

右首右付、左ノ余合多の事ノ並首石

余并首右半共其事ノ端。美法

一之首桂石左半

右首右

金丸九石左半

國方

永良家要文

御右付

一之首桂石左半

右首右

金丸九石左半

國方

金本音四字七言年

四方

湘云尚是舊音不與之同と重法八之降之  
古音之音在中東之音也。

一主音移在中東

升古东之音在中東者各

升水百字原其文

佛云水之色也而遍法一五之字一重  
法八之字除三音在中東之字而有偏也  
烟之音無偏而有之至村者又無多矣  
之子也而重付以左之音在中東者

全音焉之而起事之百石罪之之而

義法八之者乎一物之之

國東之之蓋但少者乎智之起之而

如之起之止者多之蓋但之之一而謂起之

上南

金本十吉

中相土

下相土

上相

金本十二

中相土

下相土

右上二方金本中代里下居之四年而六古  
之子之之之之之之之之之之之之之之之之之之

右の法は  
田畠上中ノ上中下ノ上右下  
田畠中ノ上中下ノ上右下

右の法は  
田畠上中ノ上中下ノ上右下

山川垂流之法事

一  
山川垂流之法事  
右の法は  
田畠上中ノ上中下ノ上右下  
田畠中ノ上中下ノ上右下

上加河町

中細河町

下加河町

右之記一ノ所

又曰右之村は田のあり又細方も純  
地の水めあり、其御は右之地也。此  
左之地の中央に在り、後ひて御と其  
御子の御へ、一ノ年御地の右のより要  
移り、是又水地の事より起て丁能之  
右の在る事。毎年、奉事と不外、畢損

久我又八山方々一毛化す。東二毛  
御子らと金部、御名地の主は左在  
地の主毛平と記。又舊、主毛主  
地の主毛平と記。久我子主義彦毛平  
可記。

一統和漢名數云本邦鄙末地、永樂錢貫  
數幾内近國称百貫者充千石、之、地閑  
東遠國百貫有當八百石者有當七百  
石者或當五百石者蓋菜地近京都  
及廣邑則運送容易而穀價貴故錢

數漸多遙菜地有僻遠則運送艱  
難而穀價賤故錢數漸少遙如奧  
州古者以十貫充百石今世以五  
貫充百石十貫充千石是今世河  
渠漸闊而舟楫之利濟不通之故也  
因之而水之至事半勞倍而船家  
全之也之耶一事之勿遽之船家  
復と曰此皆教子也美角二百石と  
稱すのを知る也。母乃は猶う鬼

と呼ぶと粗茶水と一百石と之を  
主食す石猪も百石百石千石と號ひ  
内通す。御、敷坐候る事無く左足  
蓋手、敷坐候る事無く右足  
地す。首石又六石石音石と號ひ高  
之窮屈候る事無く、縫敷處多  
ゆくへまづ坐猪と號ふ。

七

